大分県ＰＴＡ
はぐくむ
発行所
大分市大字下郡496-38
大分県教育会館2F
大分県ＰＴＡ連合会
☎(097)556-9055
責任者　冨永大輔
印刷所　大分市下郡3154の22
九州凸版印刷株式会社

子どもが輝くＰＴＡ活動を目指して
http://www.oita-pta.com/

伝える　つながる　親から子へ

子どもたちに責任の持てるＰＴＡ活動をしよう

7月26日㈯、第8回全単位ＰＴＡ会長研修会が、大分県教育会館で開催された。
テーマは「単Ｐ会長として見えてきた子どもの教育について～コミュニケーション能力の上達のために～」
過去最多、320名の出席のもと、内容盛りだくさんの充実した会となった。

「保護者心得六箇条」を手にあいさつする冨永会長

県内の単位ＰＴＡ会長が一堂に会し、単位ＰＴＡの研修活動を推進し、組織の推進役としての資質の向上を図ることを目的に毎年行われている。

始めに、冨永大輔県Ｐ連会長があいさつ。「保護者心得六箇条について。これを提唱させていただいて6年目となる。内容を平たく言うと、

- まず自分が手本になりましょう
- 人を尊重しましょう
- するべきことをしましょう
- 人の悪口は言わない
- 社会の秩序を守りましょう
- 積極的に社会活動に参加しましょう

成ってもらいたい子どもの姿です。子どもの健全育成のためにぜひ活用して頂きたい。またＰＴＡ活動は子どもの笑顔のために行われている。子ども一人ひとりに親が責任を持てるＰＴＡ活動をしていきたいと思っている。

ＰＴＡの活動とは、人と人との繋がりの中で進んでいくものなので、今日の会でいろんな情報を持ち帰りぜひ活用していただきたい」と力強く語った。

ＰＴＡ活動は子どものために自分のために

午前中の講話会は、4つの会場毎に分かれて、一万田正彦氏、ワトソン・ロバート氏、有松一郎氏、和田俊二氏を講師に迎え行われた。それぞれの活気溢れる語りに各会長たちは真剣に聞き入っていた。

▽おやじの会の良い所は、やりたくて来ているというところ。やらされてはいない。行事例としては、大なわとび大会・肝だめし大会・おやじの授業・田んぼ作りなど。一つ大きな行事をやるだけではただのイベント屋になってしまう。その後の活動を充実させることが大切となる。

▽自分に会長が務まるか分からないが、出来ればやってみたいという気持ちでやってきた。そしてそれは気付けば自分のためだった。まずは関心を持つことから始めてみたら。

▽ＰＴＡの目的は子どもたちを笑顔にすること。そのためには誰よりもまず親が笑顔でいることが大切になる。そのためにＰＴＡ会長として何が出来るかを考えることが会長の役目だと思う。

▽ＰＴＡは子どもの人生だけでなく保護者自身の人生も変えることが出来る。チャンスを生かして。会長は地域の中でも大きなポジションを占める。子どもたちにも堂々とした姿を見せて欲しい。

と先輩会長として、具体的なアドバイスや心得を伝授した。

ネットモラルを理解して子どもを守る

午後からは、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所の研究企画部主任研究員、七條麻衣子氏による「ネットモラル・ネットトラブルへの対応」と題した全体研修会が開かれた。

「子どもたちが今どんなネットサービスを活用しているのか。ネットは大人にも子どもにもなくてはならない生活の手段となってきている。情報を得るだけでなく発信する。そこで起きるトラブルから保護者としてどのように子どもたちを見守るか」と問題提起し、次のような話をした。

「子どもたちには、自分にとって大事な情報や、家族友人に関する情報をどうやってうまく管理をすればいいのか、何が危険なのかということを小さい頃から教えていくことが必要となった。

情報モラルとは、人権に配慮しながら情報をきちんと保つ、安全に取り扱うということ。

ネットの世界では、子どもたちは何気なく遊んでいるつもりでも、知らないうちに罪を犯してしまうこともある。それを教えるのは家族である。家族でルールを作ることはおすすめ。今の情報化社会を作ってきたのは、私たち大人。サービスを作って提供して、お金を払って子どもたちにこの通信環境を提供している。関係のない方はいないと思う。ネット社会での振舞い方、うまく自分を守って生きていく方法をぜひ子どもたちに教えてあげて欲しい。ネットだから特別ということはない」

私たちに気付きを与えてくれる会となった。

講演する七條麻衣子氏

課題を持ち寄り解決策を見つけ出す

グループ討議では、小学校11、中学校5グループに分かれて各司会者のもと、活発な意見交換がなされた。

～内容は左記の通り・抜粋～

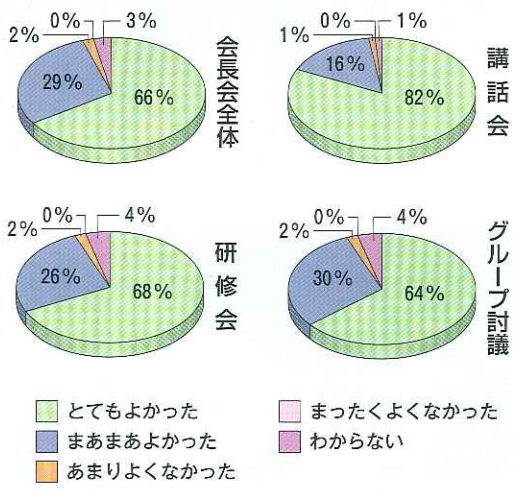
●小学校の時は、学校から結構連絡があったが、中学校になったら距離感を感じる。学校での様子が分からない。

●私が会長になった時に校長先生に、学校であったことは些細なことでも連絡を下さいと言ったら、頻繁に連絡をくれるようになった。私たち会長からひと声かけないと。

●小学校の統合が決まっているが、現行のＰＴＡの運営をどうするか不安がある。

●会長のカラーを出してもいいと思うが、役員みんなで話して、みんなで決めたい。それぞれの単Ｐで直面している課題は違っても、会長として何が出来るか、多くの共感を胸に、これからのＰＴＡ運営の展望が開かれた会となった。

事後アンケートの結果



意見・要望など

○Ｐ会長として取り組める事例を学べた。
○熱意をもって学校や子どものために活動されている方を知り感銘を受けた。
○いろいろな地域のいろいろな学校のことが聞けてとてもよかった。
○大変有意義な研修でした。来年以降も続けてほしい。
○グループ討議の人数が多い。半分くらいであればと思った。
○朝から夕方まで全体の時間が長すぎる。午前中くらいで負担を減らしてほしい。

研北心寸

▲8月4日大分市立中島小学校に出向いた。校区青少協、校区民生委員、ＰＴＡの三者が一体となって児童健全育成のために子どもを中心に楽しく活動する光景の中に身を置き昔日を懐かしんだ▲大分県、市発の「夢一輪運動(会長・野上健次氏)」がある。花を愛する優しい子どもの育成が目的の会である。折れたり、枯れかけた花の命の再生を願って、花びらで絵や字を書く活動である。その手伝いに育成会の方々と制作を楽しんだ。児童の発想の豊かさに毎回驚くばかり。民生委員、ＰＴＡは高学年生と、やせうまを作ってみんなで頬張った。校内の処々に1996年の中教審答申を受けて「地域に開かれた信頼される学校」の標示があったが、すばらしい地域の教育力を見せつけられた▲開けば29年4月に、荷揚町小(明治5年開校)中島小(大正13同)住吉小(昭和32同)と新制中学発足(昭和22年)と同時開校の碩田中が、小中一貫校(校地は碩田中)となるという。既に平成23年度より四校は連携と研究をすすめているとのこと▲明治5年開校という日本屈指の古い荷揚町小を源流とする四校である。日本屈指といわれる新しい小中一貫校の歴史を創造していただきたい▲新生の学校の特色や校風にこの中島の地域の教育力も引き継いでいただきたい。心身一如、色心不二というではありませんか。各四校に歴史があります。目に見えない、四校の心の歴史も引きついで欲しいものです。でも荷揚町小の学帽はどうなるの…。世間が野球帽一色になった時もあの学生帽は変えなかった。伝統や校風を創る考え方の一例です。

指定研究発表会

で育つ　子どもたち

平成25・26年の2年間にわたり、県ＰＴＡ連合会指定研究に取り組んできた3校の研究発表が行われた。家庭・学校・地域が連携することを重要視し、子どもを中心として地域の特色を生かした活動の発表となった。2年間の継続的研究の成果が披露され、多くの参加者に感銘を与えた大会となった。

ＰＴＡ指定研究発表は、昭和24年県教委が始めたのをきっかけに始まった他県にはない大分県Ｐ連の特色ある事業である。

現在は大分市より１単位ＰＴＡと、県南・県北の各郡市より２単位ＰＴＡを指定、２年間の研究の成果を公開発表し、今後のＰＴＡ活動の振興を図り、大きな成果をあげている。

大分市立 稙田東中学校ＰＴＡ　11月9日

親も子も楽しんで取り組む

大分市立稙田東中学校ＰＴＡ（生徒数５３９名、会員数５１８名）は「挑戦!! 今できること～学校・地域・生徒とともに活動するＰＴＡ～」を研究主題に公開発表を行った。

挑戦する姿を子どもたちに

今回の公開活動は〝部活に挑戦〟。保護者に積極的に足を運んでもらい、学校の実態を見てほしいという学校からの願いをうけ、ＰＴＡ主催、サポーターズ（おやじの会）運営で行い４年目となる活動。保護者が積極的にＰＴＡ活動に参加し、新しいことに挑戦する姿を子どもたちに感じてもらいたいと考えた。この活動を多くの方たちに知ってもらい、ＰＴＡ活動のヒントになればと、研究発表会参加者が〝部活に挑戦〟する体験型の発表会となった。当日は雨によりソフトテニス、陸上、野球の挑戦は中止。

先入観にとらわれず

オープニングセレモニーで合唱部による歌が披露され、最後は保護者有志も加わり、歌声に会場は魅了された。

卓球部ではダブルスやシングルスによる試合が行われ、男子生徒は「上手な人もいて驚いた。最初は緊張したが楽しかった」と話した。

バレーボール部はミニバレーと普通のボールで試合を行った。「ＰＴＡの企画などで大人だけでミニバレーをすることはあるが、子どもたちと対戦することはないので楽しい」と女性参加者は語った。

武道場に入ると、剣道の緊迫した試合が行われていた。剣道部は保護者も対戦相手になっており、母と息子が親子対決をしていた。初めて道着を身に着けて体験した母親は「子どもに剣道のアドバイスをしてきたが何も言えなくなった。でも自分が経験したことにより、さらに応援したい気持ちが大きくなった」と汗を流しながら笑顔で語った。

美術部は、稙田東中の卒業生でアート書道家の岩上真弓氏を講師に、アート書道が行われた。最初のお題は「花という字をバラをイメージして書く」というもの。戸惑い筆がすすまなかった参加者たちだったが「アート書道は何をしても良く、間違いや正解はない。また他人と比較しなくても良い」と講師から助言があり、参加者は自由な発想で筆を進めていた。

会員の絆を深め　新たな〝挑戦〟

午後からは、研究主題による実践報告が行われた。

「今回の取組を通し、改めてＰＴＡ活動本来の目的を再確認することができた。保護者からは『子どもたちの成長が感じられ、部活を通しての会話が増えた』との声が聞かれ、先生からは『子どもたちの練習への姿勢が変わった』と話があった。また親が子どもの部活動に参加することで、子どもは〝見られている、応援されている〟という意識を持つようになり、やる気と自信につながっている」と報告した。日程調整や保護者の参加・見学者を増やす事が今後の課題である。

息を呑む熱戦

須股恵美子県教育庁社会教育課主任社会教育主事は「大人が挑戦して見せるのは、子どもに大人の姿勢を見せる良い機会であり、ＰＴＡの底力を見せ続けている活動である」と指導講評した。

中津市立三郷小学校ＰＴＡ　11月16日

ふるさとを誇れる子どもの育成

中津市立三郷小学校ＰＴＡ（児童数８７名、会員数６２名）は「つながりで育てよう三郷っ子～家庭・学校・地域と連携して～」を研究主題に公開発表を行った。

支援のもとに　多様な活動

三郷小には、地域あげて子どもに関わっていこうとしてくれる方々の温かい支援がある。子どもを大切にした取組を行ってくれる数多くのゲストティーチャーと共に、午前中は公開授業が行われた。

5・6年生は「山国いろはカルタの読み札を創ろう」と題し、山国町の特色ある自然・史跡・行事・偉人などを紹介するカルタを作成。山国川柳・短歌の会の方の指導のもと、それぞれの絵札に合った読み札を考える。5・6年生が読み札づくりを、山国中学校の生徒が絵札をつくる。女子児童数人が「キーワードを選んだあとのリズミカルな読み札づくりが一番難しかった」と口を揃えたが、時間をかけて読み札を見事完成させた。

1・2年生は、木づちやのこを使って大根だまでっぽうと、カッターナイフで竹とんぼを作った。地域の支援者は、のこを使う児童の傍らで添える手の位置を気遣いながら優しく見守る。自分の力でうまく切れた瞬間、児童の真剣な顔が笑顔に変わる。手作りのおもちゃができ上がるとすぐさま移動して遊び始め「作るのは難しかったけど遊ぶのは楽しい」「的の百点に当たってうれしい」と夢中だった。

3・4年生は、自分たちで育てたひょうたんに絵付けをした。根っこがいたまないようにポットからプランターに植え替えることから始まったひょうたん作り。何回も水を換えて中から種を取り出す作業には「ひょうたんの口がせまくて大変だった」と発表した。よく乾燥させてニスで塗装したひょうたんに、それぞれ絵を書いていく。さらさらっと

ひょうたんが動かないように集中

午後の開会行事に先立ち、地域の方のお囃子にのせて子ども神楽が披露された。結成わずか8ヶ月とは思えない堂々とした勇壮な舞は見応え十分で会場を大いに湧かせた。

続いて行われた実践活動報告では、学級、専門部、おやじの会がそれぞれ活動内容や成果と課題を発表した。ふるさと学習と地区活動とのつながりもあわせて紹介した。「地域の方々から支援をいただいて子どもが大きくなっています」という保護者の言葉が表すように、家庭・学校・地域が連携して、そのつながりに見守られて子どもたちの育ちがあることを報告した。

須股恵美子県教育庁社会教育課主任社会教育主事は「人間関係形成力とは、共同作業をしながら共感し、仲間を作り仲間と活動する力といわれるが、三郷小はそれを地域の方々が作ってくれている。価値観の違う人と話をし体験をしあうことは大事。今後も続けてほしい」と指導講評した。

参加者を魅了した子ども神楽

地域の方々に見守られて

三郷小では「なかつスクスクプロジェクト」と名付けられた芋の苗植えや椎茸狩りなどのサポートから「森林体験学習」のサポートまで、地域の方々から幅広く支援してもらっている。その、ふるさと学習の様子をスライドで紹介。何個も書く子、一つを入念に仕上げる子。「ひょうたんが丸くて、絵の輪郭を書くのに苦労した」と女子児童は笑顔で話した。地域の方々に赤いひもを付けて飾ってもらったひょうたんを手の中で転がしながら〝逸品〟をみつめた。

答えを探す子どもを支える教師へ

一年生とビオラの苗をポットに移植する作業をしていた時のことです。「何に気をつければいいかな」という問いかけに「やさしくする」と答えた子どもたち。そこに「やさしくってどうするのかな」と聞き返す私。

授業でもみかける風景ですが、これがよくないということに気付かないままになっていることが多いのではないでしょうか。

経験のある私は「やさしく」の具体的な内容、つまり教師の持っている正答を子どもたちに求めているのです。しかし、これでは教師の顔色をうかがう子どもたちが育ってしまいます。

子どもなりの「やさしく」をさせてみて、失敗したらもう一度挑戦させて、子どもなりの答えを試行錯誤しながら探す手助けをしていくことも教師の大切な役割なのです。

「正答保持者の教師ではなく、正答を求め続ける子どもを支える教師」への変身が私たちには求められているのです。

竹田市立城原小学校
校長　川上　修司

平成25・26年度　大分県ＰＴＡ連合会

生き生きと　地域

津久見市立 青江小学校ＰＴＡ　触れ合いが育む笑顔

11月22日

津久見市立青江小学校ＰＴＡ（児童数２０３名、会員数１６３名）は「えがお　かがやく　ＰＴＡ活動～子ども親も成長することを目指して～」を研究主題に公開発表を行った。

“えがお”“ありのまま”キーワードに

平成25年から「コミュニティスクール」の指定を受けている青江小で、子どもたちは日頃から多くの保護者や地域の方の支援のもと、地域とふれあい、人と関わりながら学んでいる。そのありのままの姿を見てもらいたいと午前中の公開授業は行われた。

これまで朝顔や芋などを育て自然とふれあってきた1年生は、冬野菜のかぶを育て、それを味わう授業を行った。茹でてスライスしただけのかぶをかじりながら「甘い」「しゅわしゅわする」などの感想を発表。なぜ甘いの？という問いには「甘くなあれと言って育てたから甘くなったんじゃない？」と言う児童も。植物を大切に育てる心、感謝する気持ちを学んだ。

2年生はこれまでも地域の方との交流を通してものづくりの楽しさを味わってきた。今回も地域の方々と協力しながら缶ぽっくりを作った。

津久見市には、全員が書道師範の腕前を持つ“たけのこの会”というボランティアグループがあり、月一回のペースで書写の授業を行っている。今回9名の講師が3年生の授業に入りきめ細かな指導を行った。

地域の名人に支えられ

4年生は4～5人のグループに分かれ保護者へのインタビューを行った。内容は保護者たちの子どもの頃の様子や好きだったもの、現在の仕事について、自分たちの子どもに対する思いまで幅広い。そのインタビューを通して、親の思いや願いを知り自分たちの行動に生かしていく。真摯な態度で答える保護者の姿に子どもたちはメモを取りながら熱心に聞いていた。

「おいしいでしょ？」

5年生は、米づくりを通して自然と向き合い、食に関心を持ち、我々の生活との関わりを考えるという総合的な学習を行った。今回は、自分たちの手で収穫した米でおにぎりを作って食べた。

6年生は、身近な人との関わり方と気持ちの伝え方を考える家庭科の授業。エプロン制作で指導してもらった地域の方を招き一緒にフラワーアレンジメントを制作した。最後に「教えてもらって完成したエプロン、大切に使います」などと一人ひとり自分の言葉で感謝を伝えながら、出来上がったアレンジメントをプレゼントした。

青江小らしく“楽しむ”

午後からは、子どもと親が共に一つ決めたことに向かって取り組む「親子ワントライ」活動と「家読（うちよん）」について、諫山校長のシナリオ原案をもとに各学年の委員長部がお芝居形式の全体発表。笑いと「あるある！」という共感で会場を惹きつけ、まさに親も子も“楽しむ”ことを大切にする青江小の姿があった。

宿利幸伸県教育庁社会教育課主任社会教育主事は「成長とは、体験活動などを通し、自分のありのままの姿を把握し、そこから一歩出ること。研究の中核『ワントライ』は、1年生から6年生まで発達段階に見合った取組ができていた。発表も、手と手、目と目で確認できるすばらしい発表だった」と指導講評した。

子どもたちの未来を集い語らい

第62回日本ＰＴＡ全国研究大会
第59回九州ブロックＰＴＡ研究大会長崎大会

第62回日本ＰＴＡ全国研究大会・第59回九州ブロックＰＴＡ研究大会長崎大会が「異国情緒豊かな長崎で　集い、語らい、学びあい～きてみんね　さるいてみんね　よかとこばい～」を大会スローガンに、8月22、23日開催された。

全国よりＰＴＡ会員及び教育関係者８０００人が集い、正に語らい学び合う2日間となった。

一日目は、10の分科会に分かれそれぞれの研究課題に沿った実践発表や基調講演、シンポジウムが行われた。特別分科会では「こどもたちの育ちを阻害するもの」を研究課題に、池松和哉長崎大学医学部法医学教室教授の講演の後、子どもを取り巻くメディアの現状についてシンポジウムも行われた。急速に広がるネット社会の中で、常につながり続けなければならないストレスにさらされる子どもたちに大人は何をすべきなのか。参加者には特に身近な問題だけに会は白熱したものとなった。

二日目の全体会。漫画家の高野優氏の講演会は、その場でイラストを描きそれをスクリーンで見せながら行うというユニークなスタイルで行われた。自分の経験から、子育て親育ちの話をユーモアを交えながら行い、参加者の共感を呼んだ。また、合唱作曲家弓削田健介氏は歌で会場を一つにした。

熱気あふれる会場

最後に次期開催地の札幌市と福岡市にバトンタッチし、大会は幕を閉じた。

第2回こども屋台選手権2014
―ぼくたち私たちが主役―

主催　ＮＰＯ法人　地域の宝育成支援センター
第2回　こども屋台選手権２０１４実行委員会

小学生がチームでお客様をおもてなし。「第2回こども屋台選手権２０１４」が11月15日㈯トキハわさだタウンフェスタ広場で行われた。

小学生と大人の監督役数名によるチームで屋台運営を行い食のおもてなしをする。仕入・調理・販売を子どもたちの手で行うことで、社会の一員としての自覚と自己存在感につなげ、また就労体験により、“学ぶ・働く”楽しさを付与することを目指して開催された。

「じぶんたちで　できるよ」

「だんご汁いかがですかー！」

この日出店したのは、県下から応募のあった15の団体。テントには、中津からあげ、吉野鶏めし、別府地獄蒸し料理などそれぞれ地域の特色を生かしたメニューが並び、広場には「いらっしゃいませ！いかがですか？」とお客を呼び込む子どもたちの声が広がった。また、ＰＲタイムも設けられ、ステージ上では子どもたち自らプレゼンテーションを行った。

佐伯市蒲江の西浦小学校（児童30人）の6年生4人は、地元産のブリを使った「ブリまん」を開発。もちもちふわふわのパン生地でブリのハンバーグを挟んだ一品で、試行錯誤しながら工夫を重ね、パテもパン生地も全て手作り。9月から授業の一貫として商品開発やプレゼンテーションに取り組んできた。

ステージ上では、子どもたちによるダンスや神楽などのパフォーマンスも披露され、子どもたちの手による子どもたちが主役の一日となった。

来場者の投票により、グランプリには大分市の豊府小学校ＰＴＡ親父クラブの父と子と先生による「豊府っ子だんご汁」が輝いた。

こども屋台選手権は来年も開催される。ぜひ参加を。

親ごころ

つなげる子育て

私には、2人の娘と息子が1人います。最初の子どもの子育てと言えば、近所に同世代の方も子育て中の方がいる訳でもなく、人との関わりが希薄になった子育てでした。

そんな中、主人の地元に帰り、慣れない土地での生活に不安と寂しさを募らせていました。やがて、子ども達が小学校に入学すると保護者の皆さんと関わりながら、子育ての楽しみを味わうことが出来るようになりました。しかし、子どもが卒業してしまうと、その関わりも途絶えてしまいがちでした。それは、私が、子どもの同級生の保護者という思いだけで関わっていたからだと思います。そうしているうちに、思春期の多感な時期を迎え、どうしたものかと頭を抱えることも少なくありませんでした。そんな時、同じ悩みを共有してくれる人がいればどんなに心強いものかと思ったものです。その様なことから、今は、保護者としてだけではなく、一社会人として友人として日々の生活の中で関わりを持つことで、回りにいる方々との結びつきが感じられてきました。

その結びつきは大人だけではなく、子ども同士、親子関係を築く手助けとなっています。子育ての問題を共有し、子どもを育てようとしている意識が、子ども達にも少しずつ伝わるようになり、コミュニケーションを図るきっかけにもなっています。今後も、この様な関わりを大切にしながら、子どもが育ち親も育つ、つながる子育てを、子ども達にも感じてもらえるよう、お互いに手を貸し気遣いながら目指していきたいと思います。

中津市立三光中学校
長谷川　喜美代

一村一PTA ネットワーク16 報

（16は県下郡市等P連の数）

杵築市　会員数　1,573人
学校数　17校

豊後大野市　会員数　2,252人
学校数　18校

杵築らしく楽しみながら

杵築市ＰＴＡ連合会

杵築市ＰＴＡ連合会は、24単位ＰＴＡ（幼Ｐ連含む）で組織されている小規模の連合会です。そんな小さな地域ですが、子どもを取り巻く環境の変化、社会状況の変化などに対応していけるように、市教委との懇談会を毎年行い意志の疎通を図っています。昨年度は大分県教育庁の阿部辰也さんをお呼びし、フッ化物うがいについて勉強しました。『フッ化物うがい』という言葉自体を初めて聞く方もおり、みなさん真剣に話に聞き入っておりました。その後の意見交換には、幼稚園の役員も加わり活発な意見が飛び交い有意義な一日を過ごしました。母親部会では、『食育』をテーマに掲げ、市の給食センター、別府の南小学校の自校給食、大分市の給食センターなど視察してまわりました。今年度は大分県学校給食会より講師をお招きし、地産地消のメニューをみんなで楽しく作り試食し、改めて給食の大切さを実感しました。

多彩な研修で活動の充実をめざす

また、今年度の指導者研修会では、社会教育振興大会と重なり、普段では呼べない教育コーディネーターの下地俊雄氏を講師に招き『夢と人』をテーマに、ご自身が教師だった頃のエピソードをユーモラスにお話しいただきました。午後からは幼稚園1園、小学校2校、中学校1校の5分科会に分かれ、それぞれ特徴のある活動を発表しました。

これからも杵築らしく、ひとつひとつの活動を充実させながら「いつも子どもをまんなかに」考えながら絆を作っていけたらいいなと考えています。

杵築市ＰＴＡ連合会
会長　宇都宮　泰三

下地先生の講演会

共に育む家族のきずな

豊後大野市ＰＴＡ連合会

平成25年9月、姫島村と豊後大野市が珍しい地形や地質を活用した自然公園であるとして、大分県初の〝日本ジオパーク〟に認定されました。そのジオの里の中で「全ての子どもたちに15の春を！」をスローガンに活動しています豊後大野市ＰＴＡ連合会です。

生活を振り返り連携につなげる

活動としては①研修の充実②家庭・学校・地域との〝協育〟ネットワークの強化③会員同士の連携（絆）の強化④子どもの健全育成の推進⑤教育諸条件の整備・促進の5項目に重点を置き、役員同士の意思疎通をはかり、全会員と連携を深めながらＰＴＡ活動の実践をしています。中でも特に力を入れて取り組んでいるのが平成24年度に策定しました～家庭教育力ＵＰの5か条～です。

いきなり高尚な取り組みに入る前に、先ずは「早寝・早起きをしよう！」や「朝は『おはよう』のあいさつから始めよう！」等、非常に簡単なように思えるが実は中々実践できていない事を5つの項目として提示し、子どもたちの具体的な生活習慣と保護者自らの生活習慣の振り返り、更には親としての役割の再確認の為、リーフレットを全家庭に配布し、家庭や学校での掲示や、ＰＴＡの際に話題にしたり、情報交換・意見交換を行ったりして、啓発に取り組んでいます。それと同時に市教育委員会が実践する「教育ＴＲＹ運動」との連携をはかり、家庭において親子一緒に取り組み、家庭でも学力向上につながる学習の支援をしていこうと活動を推進しています。今後も、子どもたちの為にできる事を一番に考え、それを行動に移していける実行力のあるＰＴＡ活動を実践していきます。

豊後大野市ＰＴＡ連合会
会長　衞藤　信彰

共に育む家族のきずな（ども・はぐく）
～家庭教育力ＵＰの5か条～
1. 早寝・早起きをしよう！
2. 朝は「おはよう」のあいさつから始めよう！
3. 朝ごはんをしっかり食べよう！
4. 家族で食事の時間をつくろう！
5. 家庭学習は時間を決めて取り組もう！

おめでとうございます　優良PTA功労者表彰

平成26年度

文部科学大臣表彰
別府市立浜脇中学校ＰＴＡ

日本ＰＴＡ会長表彰
〈団体〉
大分市立稙田小学校ＰＴＡ
佐伯市立佐伯東小学校育友会
〈個人〉
藤田　和秋（臼杵市）

第36回全国小・中学校ＰＴＡ広報紙コンクール表彰
〈日本ＰＴＡ会長賞〉
佐伯市立鶴谷中学校育友会「夢つるや」
〈佳作〉
佐伯市立鶴岡小学校ＰＴＡ「広報つるおか」

みんなでかんがえるコーナー

反抗期　どう接したらいいの？ ㉞

おとこの「サシスセソ」

「女だけの開発チーム」がテレビ放映されていた。「女性の視点」を新製品に生かし、業績向上に結びつけようとした経営に関心を寄せた報道。

「女性の社会進出」の幕開けの頃、「初の女性管理職誕生」や、「南極にも、初の女性隊長」などと、「初の○○」と、珍しさが見え隠れするような報道だったと、記憶する。

今、進出分野が広がり、女性のこまやかな目線の提案が多種多様な形に表出されて、評価の高い活動となっている。

「女性の時代」の先頭を走る「輝く女性」たちに注目が集まる時代になった。

女性の地位向上を図る風は男女平等思想の普及をはじめ制度上の変化などが後押しとなり、風速アップの状況。

一方、家事労働の簡便化現象や少子化傾向などの変化は「奥様」から「外さま」へとライフスタイルの変容を生み出した。

「夫は仕事、妻は家庭」の図式から脱出した女性は、自分を見つめ直し、自分らしく生きる生活に重心を移し、自分色を鮮明に持ち出し始めた。

この点では、男が家庭を二の次にしたことが、「生活知らずの男」と言われる結果になったのだろう。

おーいメシができましたよ
と妻を呼ぶ　飛の助

二〇数年前のサラリーマン川柳。女のサシスセソ（裁縫・躾・炊事・洗濯・掃除）は、おんなのものと、たかを括っていたわけではなかろうが、イザ！となると、大仕事の家事。途惑いからの一言か。

「親の後姿を見て育つ」子どもたちに、小さな背中だが大きな女の後姿が加わった。

「生き生き」を萎ませないで。
ゴミ袋をさげてパジャマに
見送られ　あーら

みんなで考えるコーナー室長
岩尾　淳一

編集後記

▼今回が最後の紙面担当。この新聞に関われて良かったことが3つ。新聞を隅々まで読むようになった。いろんな学校を訪れることができた。そしてはぐく美の皆との出会い。繋がれた全ての皆様に有難う。

▼指定研究発表会、子ども屋台選手権と、子どもたちのはじける笑顔にたくさん出会えた秋だった。秋空にどこまでも伸びてゆく子どもたちに、負けていられないよ、私も。

▼また読みよんの？と聞かれる。自分の取材した原稿。読むたびに小さなところが気になり直す。見直しは大事だよと言葉の代わりに伝わったかな…隣でテスト勉強中の娘に。

▼「髪、乾かして」とお風呂あがりにドライヤーを持ってきた末っ子。乾かす手の高さが成長のものさし。いつまでも小さいと思っていたが、大きくなったと実感した瞬間。

▼今回の〝みかん〟コーナーに女性の活躍（？）について。家事だけではなく、子育て・介護・仕事…結果削るのは自分磨きか？否！おっさん化するなかれ。苦労と言わず「研鑽」

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上
三井住友海上の安心
GK
〒104-8252 東京都中央区新川2-27-2
www.ms-ins.com

来年度（平成27年4月1日～平成28年4月1日）のお申込みは平成27年2月から受付開始予定です。

保険にかかるお問い合わせ・事故のご連絡
〈取扱代理店共同募集〉
はぐく美保険サービス株式会社
大分市大字下郡496-38　大分県教育会館２Ｆ
0120-56-8993（コール ハグクミ）
（受付時間：月～金　9:00～17:00）
MS大分株式会社

こんな事故が起きています

今年度（平成26年4月1日～10月31日）の事故報告

■件数／約430件

【PTA育英補償制度】

学年	種類	内　容	お支払い金額
小4	傷害	テーマパーク内で他の来場者とぶつかって転倒し、負傷	50,000円
小6	傷害	ドッヂボール大会で指を骨折	23,000円
中2	賠責	休み時間中に教室内で遊んでいて誤ってガラスを割ってしまった	6,300円

【PTA自転車安全補償制度】

学年	種類	内　容	お支払い金額
中1	傷害	自転車走行中に歩行者を避けようとして転倒	120,000円
中3	傷害	自転車走行中に車と接触	62,000円
小5	賠責	自転車走行中、ペダルで駐車中の車に傷を付けた	360,000円

もうすぐ冬休み
ケガや事故に注意して楽しく過ごしましょう